

## ■2025年丹波篠山国際博「市の誇る取組」展示の概要（案）

- (1) 目的：2025年開催する「大阪・関西万博」をきっかけに丹波篠山市でも「丹波篠山国際博 日本美しい農村、未来へ」を開催します。その時に、「市の誇る取組」を市民及び観光客に紹介して、住んでいてよかった、また、住んでみたいという丹波篠山市にするため
- (2) 場所：①丹波篠山市役所 本庁舎 1階&市役所通路  
②JR篠山口駅 自由通路  
③丹波篠山市民センター 1階ロビー  
④丹波篠山市立中央図書館 展示スペース



展示する内容のデータを担当課からもらって、4箇所に展示する掲示物を国際博担当で作成する。

- (3) 掲示期間：2025年4月1日～2026年3月31日

★「市の誇る取組」として安定ヨウ素剤配布事業の周知・啓発を実施

- ・パネル…年表（別紙）と事業の概要紹介
- ・安定ヨウ素剤（見本）
- ・問診票、チラシ
- ・「原発災害にたくましく備えようハンドブック」の紹介

# 安定ヨウ素剤事前配布事業のこれまでの歩み

<p>平成23年 2011</p>	<p>●2011年3月11日午後2時46分「東日本大震災」発生 ↓ 東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生し、原子力防災に対する関心が高まる</p>	<p>平成24年 2012</p>	<p>●平成24年3月24日の神戸新聞で「京都府が高浜原発で東日本大震災における福島第一原発と同様の事故が起きた場合の放射線物質拡散予測を公表し、約50km離れた篠山市においても屋内退避が必要とされる可能性があると報道される」 ●平成24年10月に「篠山市原子力災害対策検討委員会」を設立し、対策を検討</p>	<p>平成25年 2013</p>	<p>●平成25年4月26日の神戸新聞で「高浜原発と大飯原発で福島第一原発と同様の事故が起きた場合の兵庫県の放射線物質拡散シミュレーション（旧規制基準に基づく）が公表され、1歳児の甲状腺等価線量が安定ヨウ素剤の服用基準を大幅に超える可能性がある」と報道される ●上記を受け、原子力災害対策検討委員会で安定ヨウ素剤の備蓄だけでなく、事前配布を求める声が高まる</p>	<p>平成26年 2014</p>	<p>●平成26年3月に安定ヨウ素剤50,000人分を備蓄 ●平成26年4月に兵庫県が県内全域を対象に再度、放射性物質拡散シミュレーションを公表し、1歳児における7日間の甲状腺等価線量が安定ヨウ素剤服用基準の50ミリシーベルトを超える可能性がある市町が38市町にのぼることが判明 （市内：最大で甲状腺等価線量100.1ミリシーベルト） ●平成26年10月から順次、職員研修及び各自治会に市職員を派遣しての原子力防災学習会を開催</p>
<p>平成27年 2015</p>	<p>●平成27年6月17日に原子力災害対策検討委員会から「原子力災害対策にむけての提言」を提出  ●平成27年9月から全体的に小・中学校PTA役員を対象とした出前学習会を開催し、安定ヨウ素剤事前配布事業の啓発を実施 ●平成27年9月24日 医師・薬剤師会向け安定ヨウ素剤事前配布についての研修会を実施</p>	<p>平成28年 2016</p>	<p>●平成28年1月から53月にかけて、原子力発電所から半径30km圏外の自治体では全国初となる安定ヨウ素剤の事前配布を実施（7会場30回）  </p>	<p>平成29年 2017</p>	<p>●平成29年7月に、計5回の原子力災害対策検討委員会の中で議論が重ねられ、原子力災害対策ハンドブック「原子力災害にたくましく備えよう」が完成。全戸配布を実施 </p>	<p>平成30年以降 2018～</p>	<p>●新型コロナウイルス感染症流行を契機に、郵送での配布方法に変更し、現在も事前配布に取り組んでいる ●令和5年12月からは、10ヶ月児を対象とした乳児健康相談において、乳児とその家族を対象に事前配布を行っている </p>

市名は当時の「篠山市」での表記としています